

チーム中央小

中央小学校
校長室だより 第31号
令和2年10月15日(木)

映像で綴る～修学旅行説明会&前期終業式～



今を受け入れ、今を越える～後期始業式

下山 和子

おはようございます。新しい学期を迎えました。

皆さんは何かを目指して頑張っているときに途中でうまくいかなくて駄目になってしまったことはありませんか。一生懸命取り組んでいたことが何かの原因で駄目になってしまう。

今日はそんなときにその壁を乗り越えて未来志向で勇気をくれる言葉を紹介します。日本を代表する車いすアスリートの土田和歌子選手の言葉です。

「今を受け入れ、今を越える」

土田選手は、高校時代の交通事故が原因で脊髄損傷となり車いすでの生活になりました。その後、アイススレッジスピードスケートで活躍した後、陸上競技に転向し、24歳のとき長野オリンピックでの金メダルに続き、27歳のとき、大分国際車いすマラソンで世界最高記録を樹立しました。30歳のアテネパラリンピックでも金メダルを獲得しました。

その後も、土田選手はハードな練習をこなし、これまでの大会以上に深く熱い思いで34歳のときに北京パラリンピックの陸上女子5000メートルに出場しましたが、レース中の大クラッシュに巻き込まれるという大きなアクシデントに見舞われ、選手生命も危ぶまれるようなものでした。

しかし、その後「現状を受け入れなくては前に進めない」と考え、現役続行を決意し、事故から三か月後に練習を再開。37歳のとき、世界選手権・車いすマラソンで、金メダルを獲得、ロンドンパラリンピックに出場することができました。そのときは、日本選手団の主将も務めました。39歳ときには、大分国際車いすマラソンで世界最高記録を更新した方です。

その土田選手は、著書の中でこう書いています。「私はレースに出場するたびに『意味があって私はここにいるのだ』と思います」「試練は苦しみではなく人生を好転させるもの」「現状を受け入れなくては前に進めない」「目標があれば、すべては乗り越えられる」。

皆さんがこれから生きていく中で、自分の夢や目標としていたことが必ずしも思い通りに行くわけではありません。むしろうまくいかないほうが多いかもしれません。

例えば、本年度のコロナのためにいろいろなことが制限されたこともこれにあたると思います。

そこで、皆さんにお願いがあります。かけ足訓練とマラソン大会のことです。かけ足訓練は、市体育センター耐震工事のため、運動場でしか行うことができないこと、また、密集、密接になること、また、マスクを外さなければ苦しいことなどを考えると、皆さんの安全のためには、行うことができません。また、それができない状態で、マラソン大会を開催するのは難しいです。そこで、本年度は、かけ足を体育の時間に行うこと、そして、マラソン大会ではなく、マラソン記録会とし、順位ではなく自分が最初の記録よりどれだけ伸びたか、自分の成長を知ることが目的に開催します。これは、今安全にできる、そして、みんなを健康にするためにできる最善のことだと考えています。

土田和歌子選手の「今を受け入れ、今を越える」この言葉を思い出して、未来に向かって希望をもって教職員は頑張ります。皆さんも、ともに頑張りましょう。